

## 研修会

### カタクリの咲く頃～ガイドの勉強会

佐藤一枝（千葉市）

日時：2012年3月21日（日）9：30～15：00

場所：若葉公園事務所（泉自然公園）

講師：大田慶子氏 参加指導員：15名

テーマ：Ⅰ資料を読みあう Ⅱ観察会

泉自然公園・フィールドの千葉の自然に親しむ会が10年程開いている【カタクリガイドの勉強会】に参加し、カタクリの生育地・生活・一生と下刈りと落ち葉掻き等の資料を読みあいながら、説明をいただきました。



◎カタクリは寒い地方の植物です。氷河期には南方まで分布。しかし地球が暖かくなると南のカタクリは減りましたが、涼しい所に生育していたものは生き残れたのです。千葉のカタクリは生き残れて氷河期の忘れ物。千葉では夏涼しい山や丘陵等の北斜面で、落葉樹に覆われ水のある場所に限られてしまっている。

◎カタクリは他の草木が休眠中に芽だし、陽光を独り占めし、光合成で鱗茎に養分を蓄え、3月下旬～4月初めに開花し、5月には実を結び、種を散らし、地上部は蕩けるように枯れて姿を消し休眠する…スプリングエフェメラルの一つ。

種はエライオソームをつけている。アリは種を巣に運んでエライオソームだけ食べ、種の部分は外に捨てる。アリ散布により、そこで芽を出し、子孫を残すという効率が良い方法を選んでいることに、ただただ驚き、感心するばかりです。種は翌年、松葉のようなひよろした葉を伸ばし光合成をし、2週間程で枯れます。2年目は小さい葉をつけ、年毎に葉も大きくなる。2枚葉になり花をつけるのに7年から10年かかる。養分が不足すると、又1枚葉で光合成をし、翌年花をつけることを繰り返し15～20年の寿命だといわれています。

**観察会**…谷津に下りると落葉樹の下の斜面は落ち葉掻きをし、管理されて陽光がいっぱい注ぎ、沢山の植物が芽を出し、柔らかい緑に覆われています。アズマイチゲが花をつけ、カタクリの角芽や蕾が沢山見られ、うれしくなりました。

対斜面もカタクリが一面に出ています。カタクリの一年生に感動!「自分で見つけて」と講師の言葉に、皆目を凝らして探す。この斜面は雨で土が流れて来たりしていると講師が下の朽ち葉を除くとひよろひよろの芽が出てきました。これも・これもと一年生を見つけてうれしそうな顔・顔・顔。“ちょこん”と帽子（種皮）をつけているのが可愛いね。

ピンクに染まる頃見たいね。―――楽しみです。

午後暖かくなり出てきたカナヘビを講師が捕まえ腹側を観察

（おとなしくしていたが）―――誰も触らなかったのかな?…私は鱗が苦手!

木の名札の裏側には冬眠中のカメノコテントウ・テントウムシ、オオトビサシガメ・クサギカメムシ、ヨコズナサシガメが体を寄せ合っていました。

まだ早春の泉自然公園です。春の妖精たちで華やかになる頃、カタクリの花の仕組みを教えていただいたので、手鏡持って覗きに來たいです。―――チョウ等の邪魔をしないように――と